

第 8 次 韮崎市総合計画策定に向けた

調査報告書

～ワークショップ・研修・懇話会 編～

内容

(1) 市民ワークショップ	1
(2) 職員研修.....	15
(3) 女性懇話会	17
(4) 若者懇話会	27
(5) 中高生懇話会	33

1 市民ワークショップの概要

目的

- 蕪崎市の最上位計画となる「蕪崎市第8次総合計画」の策定に向けて、計画満了年の2035年(令和 17 年)の理想の未来像について市民の皆さんの意見を集める場として開催しました。
- 本市の生活環境や各種施策に対する意見・課題や新たなアイデア・提案など、市民目線からの生の声を集め、関係部署へのフィードバックや「官民ワークショップ」に反映しながら計画策定につなげることを目的としています。



開催日程

開催日	テーマ	開催場所	参加人数
令和7年12月 23日(火) 19:00~21:00	蕪崎市の理想の未来づくりワークショップ (市民対象) ・今の蕪崎市のすきなところ、困り事 ・理想の未来実現に向けたキーワード ・10年後の理想の蕪崎市は「～なまち」ベスト3	ニコリ3階 会議室	21人
↓今後のワークショップ予定↓			
令和8年5月頃予定	理想の未来を実現するプロジェクトを具現化しよう (市民・市職員対象) ・第1回の振り返り(課題、将来像) ・各テーマに分かれて取組みを提案しよう! (例:子育て・教育、産業・文化、福祉・教育、防災・減災、都市交通)	-	-
令和8年6月頃予定	第3回 プロジェクトの実現に向けたプロセスを考えよう (市民・市職員対象) ・実現性のある重点プロジェクトを考えよう! ・プロジェクトごとの推進体制、役割分担、プロセスについて考えよう!	-	-

参加者

市民ワークショップの参加者は、以下のメンバーによって構成されました。

- 公募市民
- 総合計画策定委員会 委員



当日の流れ

インプット・自己紹介

- 韮崎市の基礎情報・統計データについて、特に直近 10 年間の変化について、事務局から説明

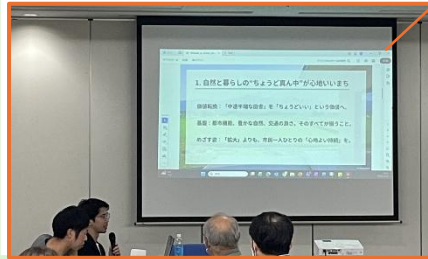


- 自己紹介と共に、韮崎市の現状や課題について気になることについて情報共有



① 韮崎市の好き・課題

- 韮崎市の「好きなところ」「課題」についてキーワードを書き出す
- 似た意見は近くに貼って体系化



② 理想の未来を描いてみよう

- 前のワークを踏まえ、理想の未来では「何がどのようになっている(している)」かについて意見出し
- それぞれの意見に共通するキーワードがあれば中心に記載
- 理想の未来を表現するキャッチコピーを各班3つ作成

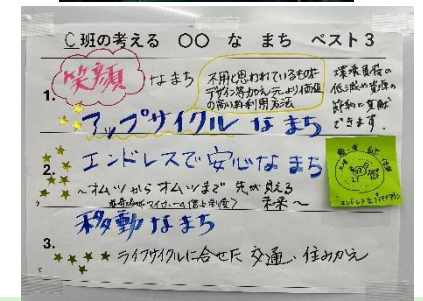
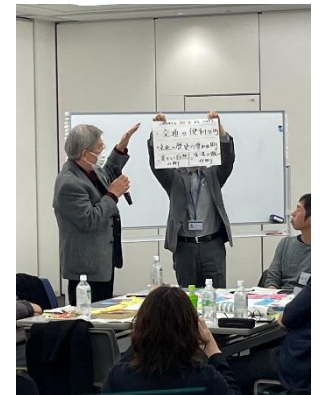


★AI キャッチコピー

- ワーク①の意見を全4班分入力し、4 班同様の形式で AI によりキャッチコピーを作成
- AI によりスローガンに関する発表資料を作成

全体発表

- キャッチコピーの作成経緯や想いを共有
- 最後投票を実施(1人3票)



2 市民ワークショップの結果

A 班

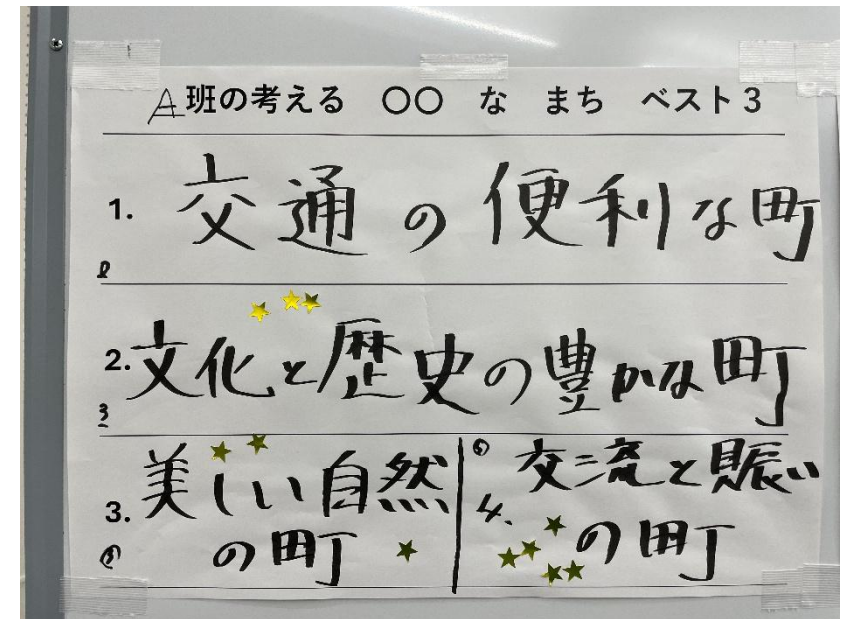
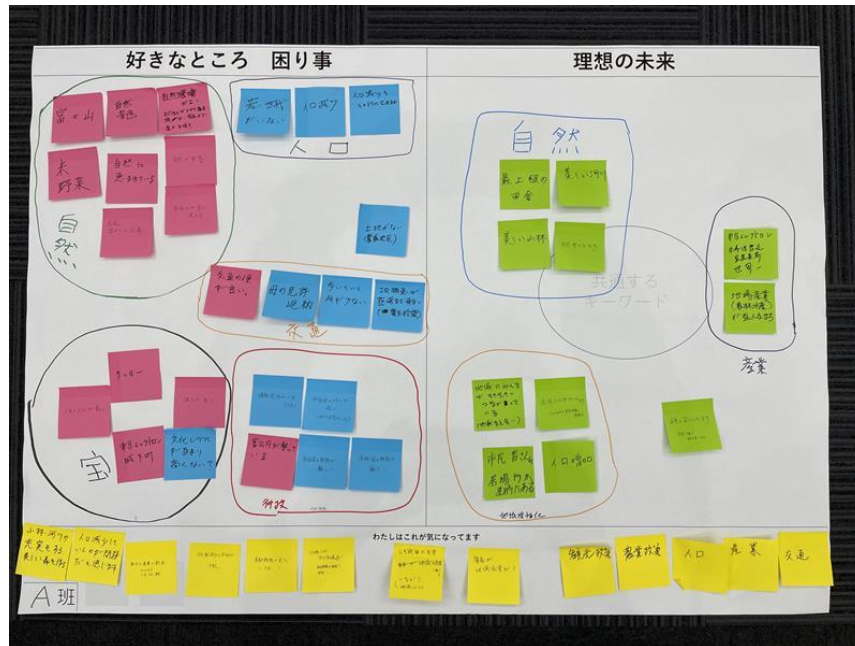
好きなところ・困りごと		理想の未来
<p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 富士山 ▪ 自然景色 ▪ 自然環境がよい ▪ 台風などがさけて通る ▪ 緑・水・空気がよい ▪ 道が分岐点 ▪ 米野菜 ▪ 自然に恵まれている ▪ 自然が豊富 ▪ 急流富士川の風景 ▪ 百名山がよく見える <p>【交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 交通の便が良い <p>【宝】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ サッカー ▪ 歴史と文化が豊か ▪ 住人が多い ▪ 東京エレクトロン城下町 <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 官公庁が整っている 	<p>【人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 若い世代がない ▪ 人口減少 ▪ 人口減少をどのように止めるか <p>【交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 母の免許返納 ▪ 歩いていくところが少ない ▪ JR 特急が韮崎まで来ない(竜王始発) <p>【宝】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 文化レベルがあまり高くない？ <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 情報発信が下手 ▪ 市職員のスキルが低い(かつては高かった) ▪ 自治会の持続が難しい ▪ 消防団の持続が難しい <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 土地がない(農振地区) 	<p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 最上級の田舎 ▪ 美しい河川 ▪ 美しい山林 ▪ 自然豊かなまち <p>【産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 東京エレクトロン半導体製造装置業界世界一 ▪ 地場産業(農林水産)が盛んなまち <p>【地域活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域みんなが生き生きとつながっている ▪ 交流とにぎわいのまち(インバウンドと首都機能移転で) ▪ 市民・皆さんの居場所が韮崎にある <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 人口増加 ▪ 安全と安心のまち(災害に強く助け合いの力)

韮崎市の理想の未来
〇〇なまち

発表内容

1. 交通の便利な町(0 票)
2. 文化と歴史の豊かな町(3 票)
3. 美しい自然の町(2 票)
4. 交流と賑わいの町(5 票)

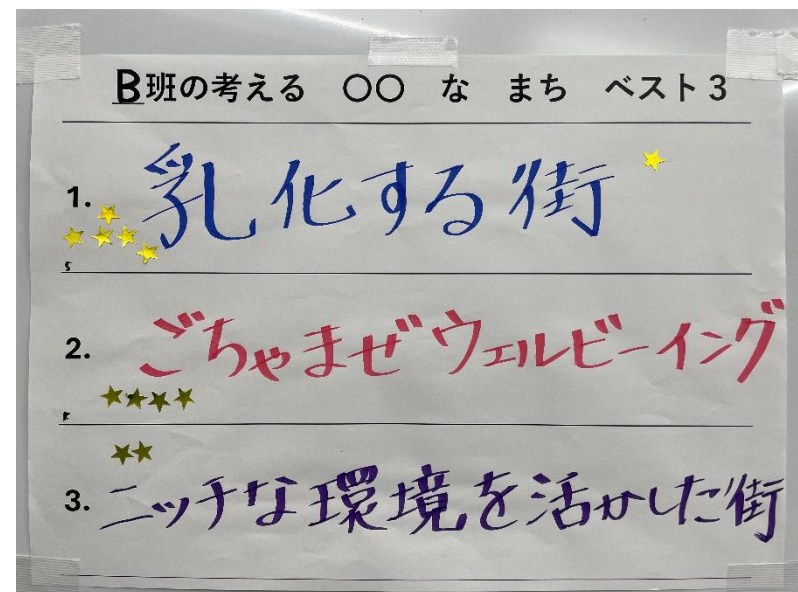
A 班は 4 つの案が出ました。1 番目は、10 年後はやっぱり生活の中でのやっぱり交通の利便性をしっかり確保できる便利な町ということで、1 番目にあげました。
 2 番目は、韮崎っていうのは長い歴史となって、やっぱ文化がある町なので、これをしっかり前に出して次の世代に継承して行って、10 年後、豊かなまちでありたいという思いを込めました。
 それから 3 番目は、よそから来ると、今の富士山もそうですし、鳳凰三山などは、1 か所で北岳など様々な山が全部見えます。
 こういう美しい景観、美しい自然もやはり我々の宝ということで、10 年後に残していきたいと考えています。
 4 番目は、やっぱり人がいないと、賑わいが大事なので、やっぱりインバウンドを含めた、もしくは首都の移転なんかも含めた形の、やっぱ交流と賑わいがある町に、ぜひ 10 年間で変わってほしいなということで以上 4 点をあげました。



B 班

好きなところ・困りごと	理想の未来	
<ul style="list-style-type: none"> ▪ マイナーだけど深み ▪ ごちゃまぜ ▪ ほどほど都会 ▪ 中途半端な田舎 ▪ 中間的なところ ▪ コンパクトシティ ▪ オンデマンドバスが家の前 ▪ 渡辺漢方薬局の先生 ▪ いい人が多い ▪ ビッグイオンが安い！ ▪ 子育て支援が充実 ▪ にらちび ▪ 独特な地形 ▪ 中央公団で健康づくり (ウォーク・ストレッチ・体育館) ▪ 大村博士が凄い！ ▪ うじゅうの森 ▪ 自然 ▪ 山はすばらしい ▪ 山々風景(南アルプス・八ヶ岳・富士山) ▪ 山がきれい ▪ 飲み屋さんが増えた ▪ アメリカヤ横丁界隈のにぎわい ▪ 地元で作ったワインが飲める！ ▪ ブドウが凄く良い！ ▪ ぶどうおいしい (防災で地域をつなぐ街、文化財と新たな事業、異質なものを共存、乳化する街) 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ バス・移動手段が少ない ▪ 先住者と移住者のコミュニケーションが希薄 ▪ 区の運営がうまくいかない ▪ 地域自治 ▪ 仕事がない ▪ アパートが少ない ▪ 土地がない ▪ 農振はずれない ▪ 学童期 ▪ 小中学校の適正規模・配置 ▪ 小学校が閉鎖的 ▪ コンビニが遠い ▪ 飲食店が少ない ▪ 補助金が少ない(農業) 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子育て世代の住みやすい住居がたくさん増える ▪ ニッチな環境をいかしたまち ▪ 農業がよりさかんになり、ぶどうやワインが有名に！ ▪ 葎崎のブドウをもっと尊重してほしい ▪ 市民がみんな登山経験がある ▪ 景観や文化財でヘルスケアシティ ▪ 健康なまち ▪ 地産地消のまち(野菜・ワイン・米・果物) ▪ 観光客が増えている ▪ 登山客が増えて登山イベントが充実 ▪ 防災で地域をつなぐ ▪ 環境が中心にあるコミュニティー ▪ 高齢者増加→あて職×協議体 ▪ たすけあいのまち・仕組みづくり ▪ 防災ネットワーク ▪ 地域のつながりが強くなり災害時も安心 ▪ 高齢者と子供の共存 ▪ 自治会の若返り ▪ ミアキスのような小学生が利用できる施設ができる！ ▪ 超コンパクトシティの実現(川向こうヘライトレールを通す) ▪ 徒歩圏で暮らせる商店街 ▪ バランスのとれた街 ▪ 車を必要としない交通の更なる充実(福祉含め) ▪ 人がつながる場所 ▪ 確変が起こる ▪ サイゼリヤ・餃子の王将の誘致 ▪ 家族で利用できる飲食店が増えている ▪ スタートアップの拠点ができて支援が充実

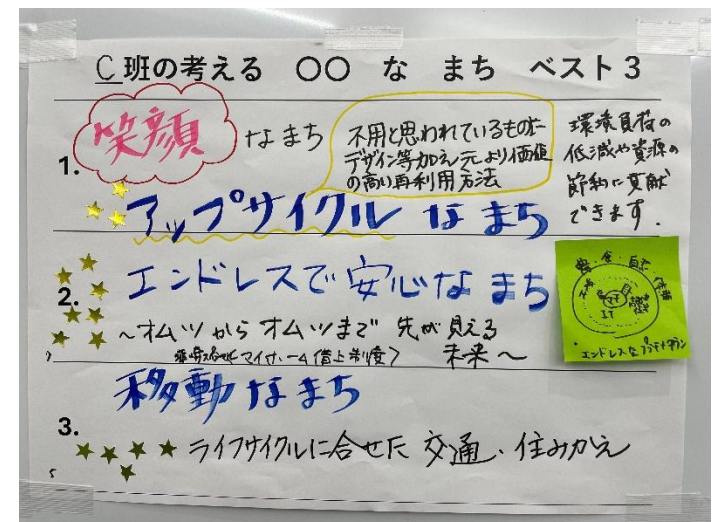
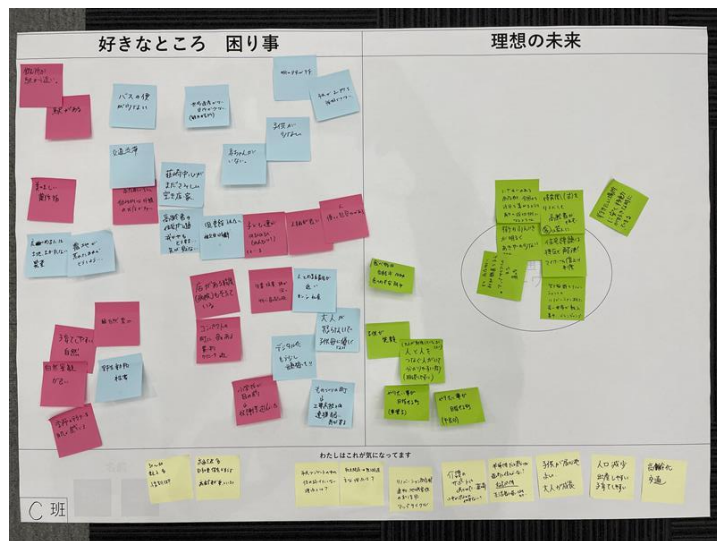
<p>韮崎市の理想の未来 〇〇なまち</p>	<p>発表内容</p>
<p>1. 乳化する街(6票) 2. ごちゃまぜウェルビーイング(4票) 3. ニッチな環境を活かした街(2票)</p>	<p>3位から申し上げさせていただきます。 3番がニッチな環境を生かした街ということで、環境の中には、山梨市が日本へ誇るブドウであったり山などの自然環境を指しております。ですが、残念ながらまだ全国にはその魅力がまだ伝わっていない。 そんなニッチを目指して、観光のお客様であったり地元の方が集まるような町を目指していきたいと願っております。 2つ目は、ごちゃまぜウェルビーイングです。ウェルビーイングは生活の豊かさだと思いますが、ごちゃ混ぜというのは、赤ちゃん・幼児からご高齢の方まで、防災という共通の話題を通して、ウェルビーイングを実現していけるような街を思い描きました。 最後、第1位は乳化する街ということで、乳荷とは、水と油のような混ざり合わないものを無理やり混ぜ合わせドレッシングにするような、そんなまちです。 例えば、大村博士のノーベル賞のような伝統的な歴史ある中に、スタートアップの企業が立つことで、本来は混ざり合わないようなものが化学変化を起こす、そんなまちを目指したいと思いました。</p>



C 班

好きなところ・困りごと		理想の未来
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 飲む所が駅から近い ▪ 駅がある ▪ 美味しい農作物 ▪ 商店街で言うと個性的な外観のお店が多い ▪ 子ども達のがのびのび(のんびり?)している ▪ 人柄が良い ▪ 人が優しく包容力がある ▪ 緑・自然豊か ▪ 子育てしやすい自然 ▪ 自然景観が良い ▪ 季節の移ろいを肌で感じる ▪ 店がある程度(病院も)そろっている ▪ コンパクトな町に色々ある(買い物・クリニック etc…) ▪ 先輩・後輩の絆が深い。特に韮崎高校 ▪ 小学校が目の前→放課後遊んでいた 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ バスの便が少ない ▪ 交通渋滞 ▪ 世界遺産がない ▪ 見どころが少ない(観光名所) ▪ 街の PR が下手 ▪ 市民がよい所を説明できない ▪ 子供が少ない ▪ 赤ちゃんがない ▪ 児童館入れない ▪ 祖父母の年齢 ▪ 韮崎中心がまださみしい ▪ 空き店舗・家 ▪ 高齢者の住宅問題(我が家もどうする…先が見えない) ▪ 広めるには土地・土が少ない農業 ▪ 農地が荒れたままでどうしよう… ▪ 野生動物被害 ▪ 人との距離が近い。監視社会 ▪ 大人が怒らないで。子供・母に優しくない ▪ デジタル化もう少し頑張って!! ▪ ものづくりの町→工業高校との連携弱い気がする 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ にぎわいのある商店街(全国から注目を集めるような。再生の成功例になるような) ▪ 保育園をリノベして高齢者が住む→家は若人に ▪ 街の雰囲気明るく空き家が少ない ▪ 住宅課題は特区で解決! ▪ マイホーム借上げ制度 ▪ まち・商店街に付加価値を与えアップサイクルのまち韮崎 ▪ 空き家群をリノベーションしてリノベーション村に若い世代が転入・集中→ブランディング ▪ 行きたい場所に安く移動が好きな時にできる ▪ 食べ物の自給率 100% ▪ 食への不安解消 ▪ 子供が笑顔 ▪ 大人が勉強している・古くない ▪ 人と人をつなぐ人がいて分かりやすい街(相談しやすい) ▪ やりたい事が目指せる町(事業主) ▪ やりたい事が目指せる町(市民)

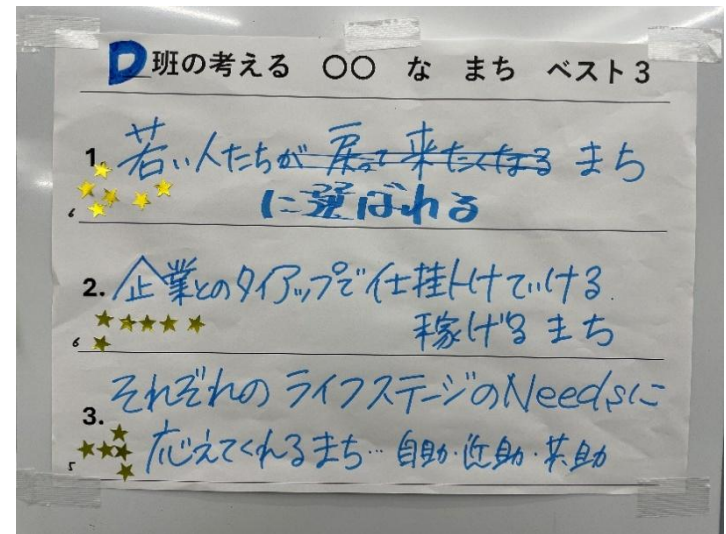
<p>韮崎市の理想の未来 〇〇なまち</p>	<p>発表内容</p>
<p>1. アップサイクルなまち(3 票) 2. エンドレスで安心なまち(7 票) 3. 移動なまち(5 票)</p>	<p>まず、大前提として、笑顔な街を作るためにはどうしたらいいかってことで、みんなで考えました。そこで笑顔な街を作るために、1 番目はアップサイクルな街ということを手挙げさせていただきました。 不要と思われるようなものにデザインなどを加えることで、付加価値を与えることで、より価値の高い再利用方法をアップサイクルと言います。それは、環境負荷の低減や資源の節約に貢献できます。 例えば、アメリカヤとかもそうですが、空き家をアップサイクルしてリノベーションしたり、あとは卵の殻で塗り壁を作って、珪藻土のような調湿効果の高い壁材ができたり、あとは、履かなくなったデニムの生地を解いて、それをまた新しい生地を作ったり、そういう本来捨てられてしまうものを有効利用する活用方法がとられており、これはまさにアップサイクルです。 2 番目、エンドレスで安心な街です。サブタイトルが「オムツからオムツまで先が見える未来」ということで、赤ちゃんからご高齢の介護まで、主役はそのお世話をする人たちだということ、「子育て支援から介護の方まで」という思いを込めています。これに関連するのがマイホーム借り上げ制度といで、高齢の方が空き家になる前にその家を誰か若い人に貸して、その高齢の方は今空いてしまった保育園などに住んで、地域医療と連携している、そういったエンドレスなまちがいいなってことで考えました。 3 番目は、ライフサイクルに合わせた交通ということ、おばあちゃんたちが好きな時にいきたい場所に安く移動できる交通の移動と住み替えの移動の意味をあわせました。老人の高齢者の方も住み替えができる、若い方も住み替えができる。それで、中心に若い人が来て、その周りでゆっくり高齢者が住んでもらえるような「移動」のをイメージしております。</p>



D 班

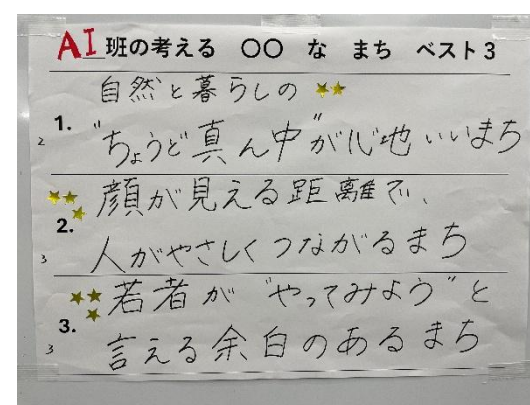
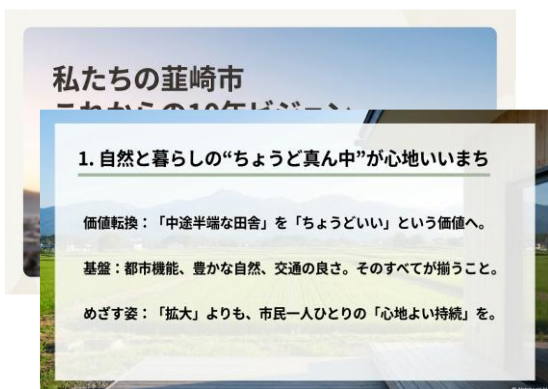
好きなところ・困りごと		理想の未来
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 頑張る製造業 ▪ 子供がはたらく場所で移動を得る ▪ 働く所がある ▪ 結婚により転入 ▪ 生まれ育った所 ▪ 好感度のある人付き合い ▪ 生きづらさを持つ子どもや若者へ見守る関わり ▪ 第3の居場所となるサポート(小・中・高～) ▪ 子育て支援(にらちび) ▪ 青少年育成(ミアキス) ▪ 若者がチャレンジしやすい ▪ サッカーのまち ▪ 土地がある ▪ アメリカヤ(商店街) ▪ 駅前リノベーションの雰囲気好き ▪ こだわりの移住? ▪ 車あってこそ…ちょうどよい距離感、あらゆる場所・目的地… ▪ 駅がある。3つも ▪ コンパクトシティ ▪ コンパクトな町、便利 ▪ ラザ(ラザウオーク甲斐双葉)に10分位でいける ▪ 山が近い(自然が豊か) ▪ 紅葉スポット ▪ 自然豊かな景観 ▪ スキー場まで1時間かからない(登山口も) ▪ 七里岩からの景色 ▪ 景色(八ヶ岳・南アルプス・富士山・川面のもや・広い空・広がる水田風景) 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 公共交通の本数少ない。利用者が少ない・いない ▪ 交通の便 ▪ 道路の不具合 ▪ 駐車場少ない(商店街) ▪ 親が高齢化、要介護4 ▪ 余裕のない学校現場 ▪ スイミングが習えない。プールがない ▪ 土地がある ▪ まち中の空き家 ▪ 空き家が多い ▪ 賃貸物件が少ない・高い ▪ 商店街利用者が平日少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 起業しやすい・チャレンジしやすいまち ▪ ▪ 住んでいる人が満足している ▪ 住んでいる人が自分らしく生き生きとしている ▪ 年齢を重ねても安心して暮らせるまち ▪ お互いの顔が見れる安心感 ▪ 製造業で働く人が斐崎に住む ▪ さらに土地集団化・工業誘致が必要となる ▪ 斐崎がもっと有名になっている ▪ 子育てで戻ってきたくなるまち ▪ 子どもたちが学びたい場所で学びたいことを自由に学べる・過ごせる教育環境 ▪ 子ども達一人一人が自分らしく学べる場所がある ▪ 子ども達をまちの人達が温かく見守りケアする人間関係 ▪ 自然がそのまま残されている(宅地ばかりにされていない) ▪ 豊かな自然との共生…鳥獣害? ▪ 自然を楽しみながら季節を楽しめる生活がある ▪ 景色を楽しみに斐崎に来る ▪ (客)リニアを利用し住み良い街 ▪ 市外からの来訪者がたくさん訪れるまち ▪ 商店街に平日も人がいる状態 ▪ 商店街の個展が魅力的で、市内外から買い物客が集まってくる ▪ 空き家・駐車場の利用 ▪ 空き家がリノベーションされ、若い人達が楽しみながら生活する ▪ 斐高サッカー一部選手権優勝

<p>荊崎市の理想の未来 〇〇なまち</p>	<p>発表内容</p>
<p>1. 若い人に選ばれるまち(6票) 2. 企業とのタイアップで仕掛けていけるまち(6票) 3. それぞれのライフステージのNeedsに応えてくれるまち(自助・近助・共助)(5票)</p>	<p>1 番から発表します。 若い人たちに選ばれるまちということで、2 重線で消去している部分があるのですが、1 番最初に出た意見としては、若い人たちが戻ってくるまちと書いてあるのですが、そうすると、まず戻ってくるっていうちょっと強制的なイメージを持ちました。なんか地元の人、若い人だけに絞られてしまうと、途中で考え方を変えて、どこに行っても、どこ出身の方でも「荊崎っていいな」と思ってもらえるようなまちが良いと思いました。 私ももうアラサーに突入してきましたので、これから色々なライフステージがまた来るのですけれど、そういったライフステージの中で、自分と同世代の人たちが、出身に関わらず荊崎の魅力が伝わって、戻ってこれるといふか、選ばれるようなまちになったらいいなということで 1 位に選ばせていただきました。 2 番目、企業とのタイアップで仕掛けていける稼げるまちということで、要するに稼げるまちにしたいよね、という意見が出ました。製造業が強みであるという荊崎市のところの価値を最大化させたり、商店街で言えば、やはりこの個人規模の店舗でちゃんと稼げたりといふか、消費行動が生まれるような、そんなまちを目指していきたいという意見が出ました。 3 番目は、「それぞれのライフステージのニーズに応えてくれるまち、自助、近助、共助」ということで、例えば子育て世代でいう「ニラチビ」、青少年、子供、中高生でいう「ミアキス」とか、老後だったら介護施設とか、色んなライフステージによって色々求めるものは違うと思うので、ちゃんとそのニーズに応えていけるまちになりたい、ということでこのようなフレーズにしました。 ただ、これらは行政サービスだけでは賅えない部分が絶対あると思うので、自助、共助とかそういったものでちゃんと補っていけるような、住民とか地域の意識など、そういったところから変えていけたらいいのではないかということを選びました。</p>



AI の成果物

韮崎市の理想の未来 ○○なまち	発表内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然と暮らしの”ちょうど真ん中”が心地いいまち(2票) 2. 顔が見える距離で、人がやさしくつながるまち(3票) 3. 若者が”やってみよう”と言える余白のあるまち(3票) 	<p>まず1つ目です。自然と暮らしのちょうど真ん中が心地いいまちということで、中途半端な田舎だ、という意見があるところをちょうどいいという価値に転換していくのがよいのではないかとこのところ、都市機能や豊かな自然、交通の良さ、それら全てが揃うところを「ちょうどいいという価値」に転換していくのが大事なのではないかという思いが込められています。目指す姿としては、都市を拡大していくというよりも、市民1人1人の心地いい持続を目指していこうというようなスローガンがまず1つ目です。</p> <p>続いて、「顔が見える距離で人が優しくつながるまち」というスローガンです。よく田舎で言われるような「距離が近すぎる」という意見があるのですが、それを地域で見守っていく、こう包んでいくというような暖かさへ転換していこうというような視点です。基本としては、誰もが、子供たちとかですね、高齢者も含めて、誰もが居場所を感じられる、人と人との関係性を育てていって、福祉・教育・子育てを支える思想的な柱として、地域力を高めていこうといった思いを込めて、このようなスローガンができています。</p> <p>続いて3つ目、若者がやってみようという余白のあるまちです。何もないという現状を、何かを始められる挑戦の余地があるという風に価値を転換しこうという思いが込められています。</p> <p>空き家や、駅の近くを中心としたエリアなどです。新しいチャレンジを応援するような土壌をつくっていこうということで、完成された街ではなく、移住者も若者も全て関われる街になっていこうといったスローガンになっています。</p> <p>3つ発表したのですが、これらには共通する1本の軸があります。拡大ではなく、ちょうどいい余白、持続を大切にすること。ハード整備というだけでなく、人間関係性、暮らしの質を豊かにしていく。誰か任せじゃなくて、市民が主役になれる、余地を作り出すというようなまちづくりを目指していこうということで、先ほどの3つのスローガンを掲げました。</p>



得票数ランキング

得票数	班	〇〇 なまち スローガン
7	C班	エンドレスで安心なまち
6	B班	乳化する街
	D班	若い人に選ばれるまち
	D班	企業とのタイアップで仕掛けていけるまち
5	A班	交流と賑わいの町
	C班	移動なまち
	D班	それぞれのライフステージの Needs に応えてくれるまち(自助・近助・共助)
4	B班	ごちゃまぜウェルビーイング
3	A班	文化と歴史の豊かな町
	C班	アップサイクルなまち
	AI班	顔が見える距離で、人がやさしくつながるまち
	AI班	若者が”やってみよう”と言える余白のあるまち
2	A班	美しい自然の町
	B班	ニッチな環境を活かした街
	AI班	自然と暮らしの”ちょうど真ん中”が心地いいまち
0	A班	交通の便利な町

3 参加者の感想

感想	言いそびれたこと・今後の要望など
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 色々な発見があって楽しかった。葦崎の発展につながればと思います。 ▪ おもしろかったです。ふつうであたりまえのことが乳化して、化学反応がおきたらわくわくします。 ▪ 楽しいファシリテートありがとうございました。AI がステキなまとめをしてくれていましたが、やはり市民が実際に話し「対話」することで、自分が普段考えている以上のことが生まれるので、とても大切だと思いました。 ▪ とても未来志向な気持ちになれました。大勢の方々との意見を交わせたことで、イメージを膨らますことができたり、とても楽しい時間でした。たくさんの気づきをいただけてとてもよかったです。 ▪ 過去は変えられないので未来の話をしましょう！他人の批判はやめましょう！ ▪ 自分の未熟さを痛感しました。葦崎市のコトであったり、自分のプレゼン力であったりです。 ▪ 普段お話しできない皆さんと葦崎の明るい未来について語る事ができておもしろかった。もっといろいろな世代が集まるワークショップがあってもいいと思う。 ▪ AI の活用は面白かった。多かった用語など熱量が可視化されるともっと面白そう。 ▪ 具体的になるとなかなかでてこない。交流・働ける・介護・子ども達の魅力ある街になってほしい。 ▪ 皆さんの意見が聞いて良かったです。一人一人考えがあるのだと思いました。 ▪ 楽しく考えることができました。話しているうちにイメージが固まってくるのが良かったです。AI はすごい!! ▪ いろんな立場の方からの意見を聞いて勉強になりました。 ▪ まとまりませんが様々な考えを聞いて良かったです。 ▪ 色々な考え方にふれて、考え方の幅と見方が広がりました。 ▪ あっという間の2時間でした。 ▪ 世代の違う方々と意見交換ができ楽しかったです。AI すごい。 ▪ 若い感性が素晴らしい。キャッチフレーズではなく具体案が必要か？ ▪ ありがとうございました!! ▪ 時間計画通りにできなかった。 ▪ 時間が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子供と高齢者、先住者と移住者など、つながりが強くなると良いなと思います。 ▪ ヘルスケアする資源(山・自然・文化財…)がたくさん潜んでいるので、葦崎の資源を活かし健康になりたいです。 ▪ 反映する・しないではなく、行政の方々も輪の中に入って、ぜひ一緒に一市民として「対話」をする機会があるとよいと思います。ぜひ、次回は一緒に！ ▪ ありがとうございました。AI 素晴らしいですね。 ▪ 参加者同士の交流がふんだんにあり、それぞれの意見や想いがまざり合い、1人では考えつかなかったコトも出力できて、私自身もとても学びになりました！今後ともよろしく願いいたします。 ▪ こういうワークショップを小学生・中学生・高校生など市内の子どもたちにもやってほしい!! ▪ 交流を通して段々と良くなれば良い考えが生まれて来る気が致しました。話し合いは必要ですね。 ▪ 市政での活用を期待します。 ▪ 教育の向上を願います。 ▪ 次の開催、楽しみです。 ▪ 市全体の空き家対策をなんとかしなければいけないと思います。協力出来ることは今後もします。 ▪ 子どもが外で遊べる葦崎がイイです。 ▪ 小学校のデジタル化(体育館使用など)はすぐできそうなので市ががんばってほしい。 ▪ 2回目・3回目はもっと具体的な策を話し合いたいです。 ▪ 案内状にタイムスケジュールがほしい(始まる時刻のみで終了予定が不明) ▪ 良い機会となりました。 ▪ 本来なら3グループとし、「市民のみ」「市職員のみ」「市民・市職員合同」でWSをして欲しかった。

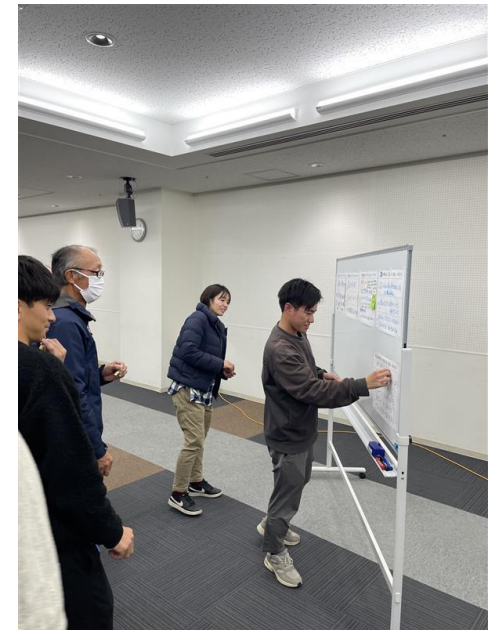
4 会の様子



会場全体の様子



ワークの様子



各班の発表に対する
投票の様子

(2) 職員研修

1 韮崎市職員研修の概要

目的

- 将来像の実現のためにどのような取組みが必要か、官民協働のプロジェクトを検討する。
- 令和7年度は、その前段として、市の財政状況や世相を踏まえたより有意義な予算要求ができるなど、自律的な職員を育成するための意識改革に関する研修等を実施する。

開催日程	開催日	テーマ	開催場所	参加人数
	令和8年2月10日(火) 10:00~12:00 14:30~16:30	韮崎市職員研修(市民対象) ・現行事業の言語化(なぜ始まった、なぜ続いている、無いと誰が困る) ・事業の廃止・縮小・継続・発展案の検討	韮崎市役所 大会議室	39人
↓今後のワークショップ予定↓				
	令和8年5月頃予定	<u>理想の未来を実現するプロジェクトを具現化しよう(市民・市職員対象)</u> ・第1回の振り返り(課題、将来像) ・各テーマに分かれて取組みを提案しよう! (例:子育て・教育、産業・文化、福祉・教育、防災・減災、都市交通)	-	-
	令和8年6月頃予定	<u>第3回 プロジェクトの実現に向けたプロセスを考えよう(市民・市職員対象)</u> ・実現性のある重点プロジェクトを考えよう! ・プロジェクトごとの推進体制、役割分担、プロセスについて考えよう!	-	-

参加者

- リーダー層以下の管理職を除く韮崎市職員 39 名

当日の流れ

インプット

- 韮崎市の基礎情報・統計データについて説明
- 韮崎市の財政的視点での懸念点や変化の激しい現代の特性(VUCA 時代)について説明
- 財政担当リーダーから財政面の現状について説明



現行事業の言語化

- 各自で選定した事業について言語化する。
 1. なぜ始まったか(過去)
 2. 今も必要な理由は何か(現在)
 3. なくなったらこの先誰がどう困るか(市民 or 役所)(未来)

【ポイント】

・言語化できなくてもよい
⇒考えるというプロセスが重要
⇒言語化できない = 事業が漫然と続いている可能性への気づき
・「事業目的」「総合計画内の関連する基本方針」が現状や近い未来とずれたものになっていないか? もチェック

- ある程度書けたら一度共有し、各記載箇所が論理的かも相互にチェック(説明責任の担保)
- 共有で受けた感想をもとに、内容の見直し、修正を行う

廃止・縮小・継続・発展案の検討

- ワーク①の内容をもとに、事業を「廃止」「縮小」「継続」「発展」に分類
- ある程度書けたら一度共有し、各記載箇所が論理的かも相互にチェック(説明責任の担保)
- 共有で受けた感想をもとに、内容の見直し、修正を行う



まとめ・宿題

- 代表者が成果を発表
- まとめ(総合計画における8年後の理想像(8年固定)の達成のためには、時代の変化や財政状況に即して、事業の見直しを毎年繰り返す必要がある、今日はその模擬的ワーク)
- 本研修を経て「自分にだったら何ができるか」を考える(個人ワークのため共有はしない)

※各職員の個人ワークのため、ワークシートの収集等は実施しなかった

(3) 女性懇話会

1 女性懇話会の概要

目的

○ 韮崎市の最上位計画「韮崎市第8次総合計画」の策定に向け、女性の視点やアイデアを知る機会のひとつとして、女性の暮らしや課題について、課題やニーズ等生の意見を聞き出す場とし、女性・子育て支援施策の検討に活かすため、開催しました。



開催日程

開催日	テーマ	開催場所	参加人数
令和8年2月7日(土) 10:00~12:00	「まちと私のちょうどいい関係」(女性対象) ・今の韮崎市の困り事、その原因と理由 ・未来に向けたアクション	ニコリ1階 会議室6	11人
その他懇話会↓			
令和8年2月13日	「若者が“働く・暮らす”をリアルに考える」(若者対象) ・若者の市内定着と回帰 ・郷土愛の醸成 など	市役所別館 301 会議室	-
令和8年2月17日	「にらさき学生アイデア会議～韮崎の未来の話をしよう～」(中高生対象) ・韮崎ってどんなまち(どんなところが好き?困っていることは?) ・どんなまちなら住みたい(居場所づくり・活躍できる場作りなど)	青少年育成 プラザ Miacis	

2

女性懇話会の結果

	困りごと	未来に向けたアクション
介護・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「夫の介護しているがシニアケアは自分の体力が心配」 ▪ 県外への通院も多く「往復約 4 時間ぐらい」 ▪ 夫が「自由に体を動かすことができない状態」 ▪ 「ヘルパーさんお願いしようかな」 ▪ 「社会的な支援を受けるのはどの辺が境界なんだろう」 ▪ 「ケアマネさんをお願いして相談しているが、やっぱりカバーしきれない」 ▪ 食事づくりも負担 ▪ 地域食堂「みんなやりたい気持ちはあるけど場所と準備金がない」 ▪ 近所のおじいちゃん・おばあちゃんがどんどん入ってきているが、その人たちの家族も離れた場所にいるなかなか助けられない。 ▪ 高齢者は毎日おんなじ生活をしていてつまらないと感じているよう ▪ 福祉は「お金にならない」 ▪ お母さん特に働いていない方はお金を持っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 介護までとは言わずとも送迎や買い物など地域の若者を巻き込んで高齢者の方々に支援できたらいい ▪ 若者を巻き込む高齢者支援

	困りごと	未来に向けたアクション
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「今すぐ必要なのは不登校支援」 ▪ 「お母様に負担をかけたくない」 ▪ 「助けてあげたい」 ▪ 共働きで児童館に預けたが子供たちが「行きたくない」「家に帰りたい」 ▪ 児童館は「規則が厳しい」、「あれしちゃうダメ、これしちゃうダメ」 ▪ 子どもは「楽しくない」 ▪ 親としては「子供を安全に見てくださるのは感謝」している ▪ でも子どもの意思を尊重し退職してしまった ▪ 子供により興味も異なるし児童館の人数も多いので、複数の施設の中から「選べる」ようになれば ▪ 「責任問題とか言わずになんでもやらせてくださいみたいな人に預けられたら」 ▪ 実践者の立場からみて「にらちび」で遊べるのは良い。 ▪ 「にらちび」は、土日にたくさんの幼稚園・保育園の父母が来て手放しで触れ合う機会を与えたい。 ▪ 子育ては「量より質」 ▪ 「0.5の働き方」 ▪ 子育て期は50%でいい ▪ 蕪崎市は子育てに力を入れている ▪ 子育てする母親は「迷惑かけてしまう」とつい思ってしまうが、私たちの世代は「迷惑結構！」 ▪ 子育て中とはとにかく休んで。地域の行事に出て地域に貢献しながら、学校でいい情報を集める。そのうち手が離れた時に帰ってくる ▪ 子育て支援センターにて、この時期(冬～春)に最も多い相談が「春入園・入学で引っ越すタイミングだが親子が住めるところがない」 ▪ 「本当は蕪崎に住みたい、環境を変えたくないけど出ていく」 ▪ 小学校以降の孤立、「パタンと人と接する機会が減る」 ▪ 地域と関わりたいけど「場がない」 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 祖父母世代も巻き込んだ地域支援が必要 ▪ 自分がしてほしかった支援を次世代へ ▪ 不登校の子供たちのフォローができる地域のちからが必要 ▪ 地域全体で支える構造 ▪ 親だけがみるのではなく、地域のおじいちゃん・おばあちゃんを巻き込む ▪ 高齢者・子どもを巻き込んだ企業・地域事業 ▪ 働き方の長い循環を ▪ 地域育ちの恩返し循環

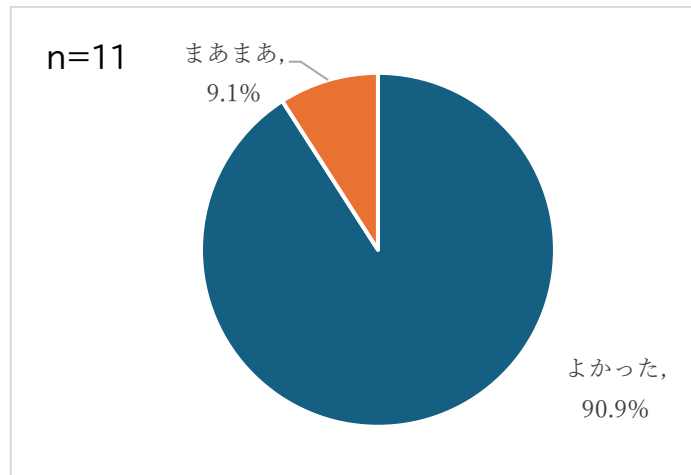
	困りごと	未来に向けたアクション
買い物	<ul style="list-style-type: none"> 車で行けるので買い物は不便感じていない Amazon もある 東京の病院は遅くまでやっているところもあるし、ネット予約できるところもあるが、蕪崎市の病院は早い時間に閉ってしまう 24 時間診療がない 予約も 1 ヶ月先に 	<ul style="list-style-type: none"> 「ライドシェアみたいにおじいちゃん・おばあちゃんの送迎やりたい」 若者×高齢者の支援(送迎・買い物)
情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報のキャッチの仕方として子育て経験者から「私はこうだった」と教えてもらう 市の広報とかで奨学金等金銭面の援助制度を仕入れている 若者世代はネットで情報が簡単に入る。東京と比べたら蕪崎市はそうでもない。 東京は X や Instagram で勝手に広告が入る。コンテンツ数も多いので、すぐ気づける。 補助金情報を教えてくれる行政支援が必要 蕪崎市に住み続けたいと思えるためには「自分のやりたいことがちゃんと見つけられる」かつ「その情報があふれている」 情報があっても「自分ごととして捉えられない」ので情報の伝え方が重要では 東京は SNS 広告で行政情報が届く 山梨は「そうではない」 	<ul style="list-style-type: none"> 一般人でも声を出せる場が欲しい 「こういうのやってみたって発信できる場」 「あの時してほしかったことを次の世代にしてあげたい」 地元で活動している人を伝えたい 中高生に希望を持たせたい ワクワクする情報発信

	困りごと	未来に向けたアクション
Uターン Uターン	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Uターン理由は「両親の体調不良」 ▪ 本当は東京でキャリアを積みたかったけど帰ってきた ▪ 仕事も親のために帰ってきて恩返ししたい気持ちがあるので頑張れる ▪ どの地域でもそうだと思うが移り住んで何年経っても「よそ者」 ▪ そのような状況でサークルに入ったがサークル自体も高齢化している ▪ 東京に働きに来た理由は初任給が高いから ▪ 蕪崎に実家に戻ろうと思えたのはトップファン ▪ 地域との結びつきが少なからずあって蕪崎ってこんないいところがあったと思えた ▪ 静岡から嫁に来て頼れるところがなかった「リタイア組」 ▪ そのときに出会った「メンター」が良かった ▪ 蕪崎に来る前は大好きな仕事をしていた ▪ 子育て支援で「にらちび」に救われて恩を返したくて働いている ▪ 小学校以降になったらたと自分から人とかかわる機会が減ってしまった ▪ 地域の人とかかわりたいという気持ちが一層あるが、そのような場がないのがもどかしい ▪ 自身のUターン理由は「住みやすいからというよりも、両親や祖父母を見るため」 「将来自分が蕪崎市で生活して子育てして、、、と考えて帰ってきたわけではない」 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 一般人が何かやりたいと思ったときにそれを発せられる場所があれば ▪ 活動場所が必要 ▪ 「そこに行けば〇〇さんに会える」というのも重要
働き口	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地元好きなので「初任給よければ蕪崎が良かった」 ▪ 地域活性化、若者世代・学生などの支援をする「トップファン」を活動中 ▪ 高校生たちのやりたいことを実現する「チャレンジハイスクール」 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 働き口が少なくても自分で仕事を作るという発想 ▪ 「いくらでも価値作っていける時代」だと思う ▪ 女性の自由度と満足度を高める社会 ▪ 若者チャレンジ支援(カフェ経営など)

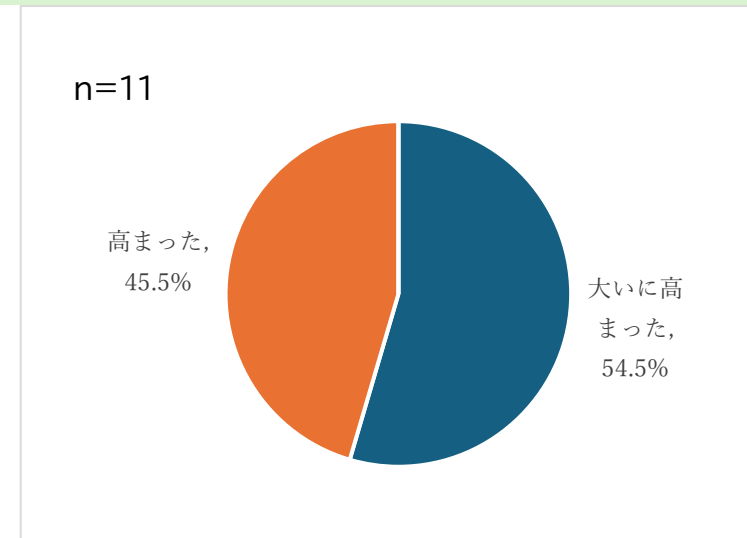
	困りごと	未来に向けたアクション
就職	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 就活中だが「地元就職情報ない」 ▪ 「やりたいことが見つからない」 ▪ 高齢者も「毎日同じ生活でつまらない」 ▪ 居場所はあるが「情報が届いていない」 ▪ 韮崎市は「子育てできるけど働けない」 ▪ 公務員・教員は戻るが、経営・専門職は戻れない ▪ 「働き口ないなって思う」 ▪ 「大学生への支援ちょっと遅い」 ▪ 進学時に支援があれば「責任持って帰ってこようって思考に動く」 ▪ 「地元の就職情報あんまり得られない」 ▪ インターン情報まとまってない ▪ 子ども3人とも県外就職 ▪ 「学んできたことを生かせる職がない」 <p>習い事送迎バスがあれば女性はもっと働ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 中高生の地域との繋がりを作る ▪ 若い世代が戻れる循環 ▪ ただし介護・給料・情報不安を解消する必要

共通して出た困りごと	共通して出た未来に向けたアクション
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 介護と体力不安 ▪ 学童の硬直化 ▪ 小学校以降の孤立 ▪ 住宅不足 ▪ 働き口不足 ▪ 給与差 ▪ 医療アクセス ▪ 情報発信不足 ▪ 大学生支援遅れ ▪ 不登校支援不足 ▪ 福祉はお金にならない問題 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域食堂 ▪ 人材バンク ▪ 送迎支援 ▪ 若者チャレンジ支援 ▪ 補助金サポート ▪ 高齢者×若者連携 ▪ 情報発信強化(SNS・ショート動画) ▪ 一般人が声を出せる場 ▪ 女性が「選べる」状態を作る

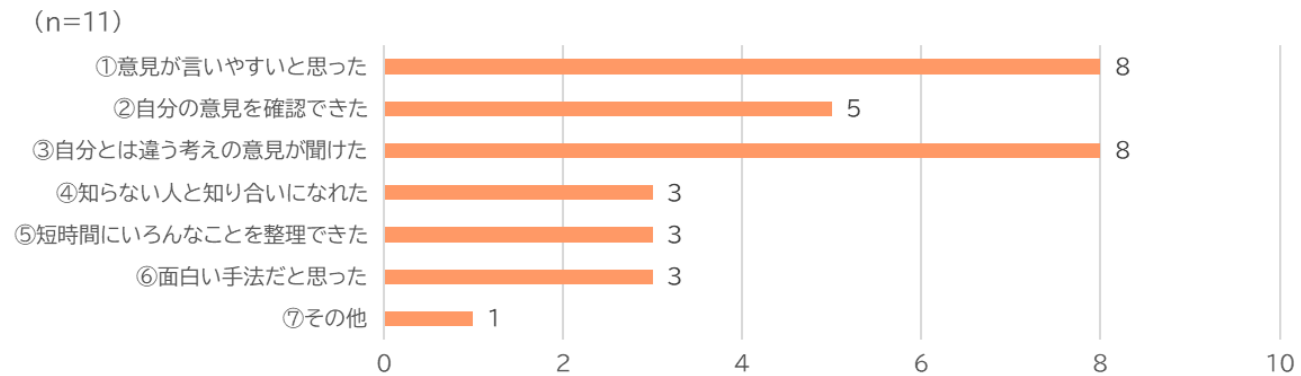
3 アンケート結果



女性懇話会満足度(複数回答)



女性懇話会参加によるまちづくり参画意欲の変化(複数回答)



女性懇話会の手法について(複数回答)

言いそびれたこと・今後の要望など

- 女性だけでなく男性も働きやすい子育てサポートをしたいです。
- 様々な意見、大変参考になりました。今日お集まりの方々以外に、より草の根の声(若い女性、大学生、中高生)ママ、中高年の本音を集める分散した方法はないかな、、、とも思いました
- やりたいことを形にできる地元→地元の人で地元力高める！幸福度にも！何か事業をやってる人だけでなく地域の人が学校に来てたらビジョンが広がるかも、、、
- この様な会を時々開いてほしいです。
- 今まで、誰に話したらいいだろう、どこで発言したらいいだろうと思っていたことが今日、言葉に出来て良かった。私の知り合い(蕪崎在住)が娘さん家族に蕪崎に帰ってきて欲しいと思っているが、旦那さんの就職先がないと困っていたので、女性だけでなく、大黒柱の働き口も移住の大きな問題だと思った。
- 教育に関することをベースに女性の子育てが考えられるといいなと思いました。女性の妊娠・出産・育児と並行して自身の心身の健康はずっとテーマだと思います。そこに夫婦のこともからんでくるのでそのサポートもできたらと思います。
- このメンバーでもう一度集まり、何かを始めよう！
- 車社会だとタクシーの利用需要低い。→市を提携して月定額等でタクシーよりも手頃な価格で子供高齢者の送迎支援制度つくれないか？
- 私は自分の祖母と同世代の高齢の義母と同居し、今後の介護が不安で、子供2人は学校が遠いので毎日送迎が必要で(こういう送迎サービスがあるといいです(^_^))、子供の習い事で週4日は夜9時頃まで送迎が必要。昼は仕事しており、とにかく家族のための時間でいっぱいいっぱい何かしたいと思っても来そうにないというのが本音です。今回のように自ら動ける力のある方々ばかりで、何も力の内自分のような立場の人が集まれる場があったら良いと思いました。それでも参加できたことで蕪崎にすごい方々がたくさんいるんだと知れてよかったです。こういう機械があったらまたはお話伺ってみたいです。ありがとうございました。
- ”蕪崎市が「住みたくなる市」になるために
 - 1 非認知能力保持者と認知能力保持者のバランスある雇用
 - 2 生命の源となる「性教育」を、小中学校を中心に学校教育で実施
 - 3 経済的自立は男女ともに精神的自立に繋がる。非正規雇用の7割は女性、3割男性という現状だが、瀬式雇用にシフトする制度を強化して欲しい。”

(4) 若者懇話会

1 若者懇話会の概要

目的

○ 韮崎市の最上位計画「韮崎市第8次総合計画」の策定に向け、若者の視点やアイデアを知る機会のひとつとして、若者の暮らしや課題について、課題やニーズ等生の意見を聞き出す場とし、若者支援施策や共創の可能性の検討に活かすため、開催しました。



開催日程

開催日	テーマ	開催場所	参加人数
令和8年2月13日 19:00～21:00	<u>「若者が“働く・暮らす”をリアルに考える」(若者対象)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の市内定着と回帰 ・郷土愛の醸成 など 	市役所別館 301 会議室	10 人
その他懇話会↓			
令和8年2月7日(土)	「まちと私のちょうどいい関係」(女性対象) <ul style="list-style-type: none"> ・今の韮崎市の困り事、その原因と理由 ・未来に向けたアクション 	ニコリ1階 会議室6	
令和8年2月17日	「にらさき学生アイデア会議～韮崎の未来の話をしよう～」(中高生対象) <ul style="list-style-type: none"> ・韮崎ってどんなまち(どんなところが好き? 困っていることは?) ・どんなまちなら住みたい(居場所づくり・活躍できる場作りなど) 	青少年育成 プラザ Miacis	

参加者

市民ワークショップの参加者は、一般公募により募集を行い、**市内で活動する実践者、出身者、苺崎市内で働いている方**など多様な立場のメンバーによって構成されました。



当日の流れ

開会

懇話内容① アンケート結果の深堀

懇話内容② 未来へのアクション

閉会

○ 苺崎市開会挨拶



○ アンケート結果の提示



○ アンケート結果を踏まえ、いま陥っている状況、またその原因や理由を深堀り

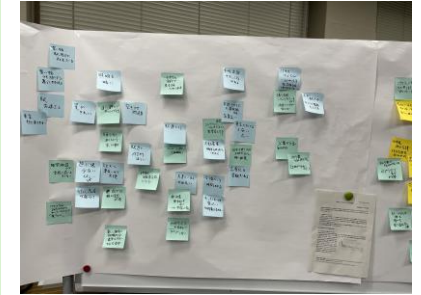


○ 市内で活躍する実践者の事例を紹介



○ 個人の「やりたいこと・得意なこと」を入口に、どんな未来が良いか、自分なら何ができるか意見交換

○ 意見のまとめ



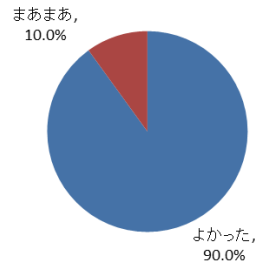
2

若者懇話会の結果

好きなこと・困りごと	未来に向けたアクション
<p>買い物できる場所は駅周辺でまとまっている 買い物ライフガーデン暮らしやすくなった 東京へ行き来しやすい 駅、高速道路のICがあって便利 照明がなくて暗い 星がきれい 静かでゆっくりできる 空き地問題 交通少なく静かで夜起こされない 駅近くに ATM ほしい 駅から遠いエリアにコンビニ欲しい(駅南側) 1 回市外に出ると便利で帰ると寂しい気持ちになる。 市外出身者のコミュニティがある 引越しのときに選択肢少ない家賃高い 企業エレクトロンの人等入るなら家賃高くなる 不動産屋物件の掘り起こしこれから 東京と比べると家賃は安い広い 住宅が建てられる土地が少ない特に新築 空き家バンクが欲しい家を探すのに時間かかる 高層化は景観悪くなる 売りたいけど貸したいでも改修費は出ない 友達とご飯に行ったり、飲みに行くことができない 飲み屋閉まるのが早い→甲府にいつてしまう。 代行サービスがあるといいタクシーこない 娯楽施設少ない学校に近いと良くない 遊ぶ場が少なく、イオンに行ってしまう 学生だと車がないので不便 個人商店の面白さ (夜)道だけでも親の送迎必須 ミアキス子どものためにやっていることに「愛着」 急に病気等になる場所は充分知らない人を紹介 ミアキスにらさきここでやってる自己満足感(知られていない) 子育て支援色々やっているのに浸透していない、知らない 人があたたかい口コミで情報入ってくる 魅力的な公園が少ない 河川敷うまく使えない(土地が少ないので)</p>	<p>ミアキス、ニコリをもっと押し出して他にはない所 市外にいと気づかないことに気づく機会 若者定住してほしい 子どものことでも高齢者のことでもやっているまち 10 年後親の介護まずは高齢者住みやすく 高齢者が住みやすいまち訪問介護が必要 高齢者施設×ニラサキワインいきいき暮らす 穴山にスーパーコンビニ またこのような場を増やす皆で意見交換 農作物人呼べるワインファーマーなどの連携 人口減少定住をどう考えるか、外に出た人をどう戻して定着させるか SNS 情報発信にらさきのこと公式インスタ 市役所から発信しても見る人少数影響力ある人からの発信 自然もいいがレトロな街並み 今住んでいる人もいかに出さないか若いうちから葦崎がいい町と知る機会 外に出て得るものも、次のライフステージで葦崎に帰る選択肢 出た人にも葦崎の状況を届ける 今は移住推進定住が主定住よりもどう貢献できるか 流動性を受け入れていく 人でつながるとまちを好きになる人を呼べる</p>

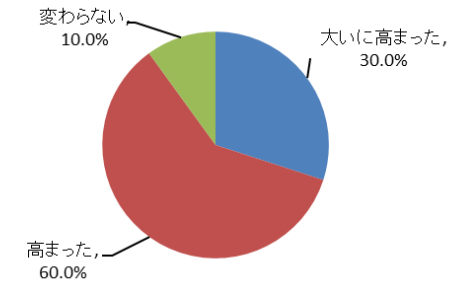
3 アンケート結果

総数	10	100.0%
よかった	9	90.0%
まあまあ	1	10.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
その他	0	0.0%

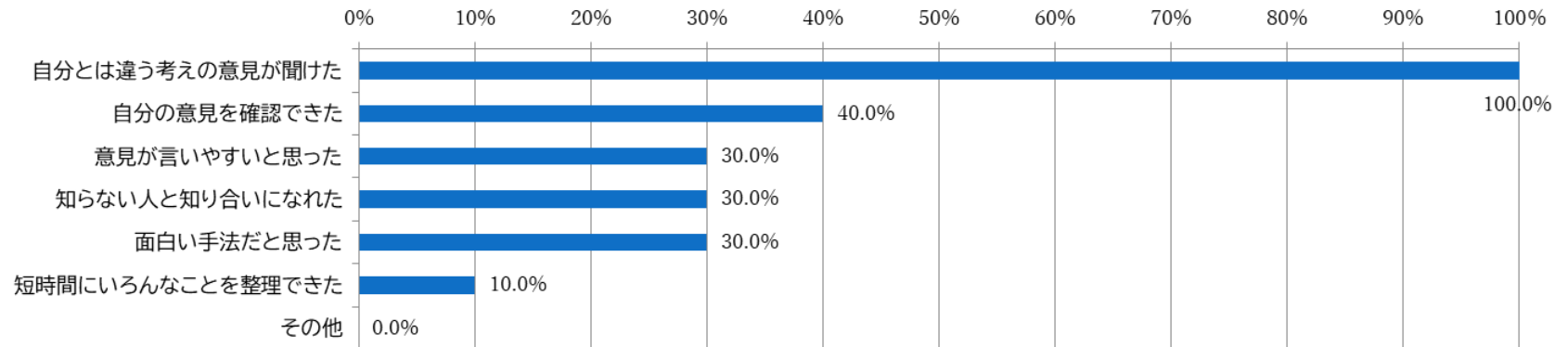


若者懇話会満足度(単一選択)

総数	10	100.0%
大いに高まった	3	30.0%
高まった	6	60.0%
変わらない	1	10.0%



若者懇話会参加によるまちづくり参画意欲の変化(単一選択)



若者懇話会の手法について(複数選択可)

言いそびれたこと今後の要望など

- 蕪崎市内に住んでいる人と、市外で考える、市の魅力に思っていることが異なり気づいていないことに気づくことができた。また、市外の方の方が愛着がとでも伝わって、少し話についていけない感じもした。
- 周りにいた市役所の人にも聞いているだけでなく、一緒に話したかった。行政とのつながりをつくりたかった。市内にすでにすんでいる人とも話したかった。
- 移住してきた人の話を聞いて、蕪崎市が、結構魅力のある市だと気付けた。
- 継続的に参加できればと思います。ありがとうございました。
- 私のやりたいことが蕪崎市で出来るよう考えていきたい。次回もこのような懇話会の機会をいただきたい
- またあれば参加したいです。・市内在住の人がもっといた方がいいと思う
- 素晴らしい取り組みです！蕪崎にこんな素敵な若者が沢山いてびっくりです

- もう少し働きやすい環境を作ってほしいと思います。またこの懇話会を開いて頂きぜひ参加したいと思ってます。

1 中高生懇話会の概要

目的

○ 蕪崎市の最上位計画「蕪崎市第8次総合計画」の策定に向け、中高生の視点やアイデアを知る機会のひとつとして、中高生の暮らしや課題について、課題やニーズ等生の意見を聞き出す場とし、若者支援施策や共創の可能性の検討に活かすため、開催しました。



開催日程

開催日	テーマ	開催場所	参加人数
令和8年2月17日	<u>「にらさき学生アイデア会議～蕪崎の未来の話をしよう～」(中高生対象)</u> ・蕪崎ってどんなまち(どんなところが好き?困っていることは?) ・どんなまちなら住みたい(居場所づくり・活躍できる場作りなど)	青少年育成 プラザ Miacis	11人
その他懇話会↓			
令和8年2月7日(土)	「まちと私のちょうどいい関係」(女性対象) ・今の蕪崎市の困り事、その原因と理由 ・未来に向けたアクション	ニコリ1階 会議室6	
令和8年2月13日 19:00～21:00	<u>「若者が“働く・暮らす”をリアルに考える」(若者対象)</u> ・若者の市内定着と回帰 ・郷土愛の醸成 など	市役所別館 301 会議室	



参加者

市民ワークショップの参加者は、一般公募により募集を行い、**市内在住や市内の学校に通う中高生**によって構成されました。

当日の流れ

開会

懇話内容① アンケート結果の深堀

懇話内容② 未来へのアクション

閉会

- 韮崎市開会挨拶
- アイスブレイク



- アンケート結果の提示



- アンケート結果を踏まえ、いま陥っている状況、またその原因や理由を深堀り



- 個人の「やりたいこと・得意なこと」を入口に、どんな未来が良いか、自分なら何ができるか意見交換



- 意見のまとめ



2

中高生懇話会の結果

好きなこと・困りごと	未来に向けたアクション
<p>【好きなこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 自然と生活環境: 自然が豊かである。駅周辺にスーパーがあり生活しやすい。小さい頃から暮らしていて不便だと感じる事があまりない。 ▪ 交通アクセス: 特急ですぐ東京に行ける、駅が明るいなど、アクセスの良さが評価されている。 ▪ 子ども・若者の居場所: 「ニコチビ」や「ミアキス」など、子どもや若者向けの場所が用意されている。安全に遊べる公園がある。中学生がニコリを使える。 ▪ 多様性とコミュニティ: 外国人が多く、共に暮らす(多文化共生)土壌がある。祭りやイベントで幅広い年代が集まる。お年寄りが今も元気に活動している。 <p>【困りごと・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 娯楽・居場所の不足: 中高生が同年代と遊ぶ場所(プリクラなど)が市内にない。ニコリにカフェ的な場所がなく、目的がないと行かない。ライフガーデンに焼き鳥などのキッチンカーがほしい。 ▪ 交通・インフラの不便さ: 中学生の移動手段が不便であり、バス路線の減便が困る。駅から少し離れると暗くて怖い。 ▪ 地域ごとの格差: 市の中心部は栄えているが、神山町など離れたところに住む高齢者(祖母など)は買い物に不便であり、移動スーパーの復活が望まれる。特大スーパーがなくなって不便になった。 ▪ スポーツ環境: サッカー場をもっと増やしてほしい、マイナー競技の施設がない、家の近くにスポーツ少年団がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 若者目線の情報発信: 中高生が中心となり、得意なSNSを活用して韮崎の魅力(カフェやイベントなど)を市外・県外の若い世代に発信する。 ▪ イベントの企画・運営: 市内で音楽フェスやスポーツ大会(バレーボールなど)を企画する。既存のイベント(花火大会など)に屋台を増やすなどしてさらに盛り上げる。 ▪ 中高生の活躍の場づくり: 大きなイベント(すずらん祭りなど)で、軽音部の発表や出店など、中高生の発表の場を作る。 ▪ 多世代・多文化の交流: 小学生や様々な年齢層と交流する。幅広い世代での農業体験や、ニコリでのスポーツを通じた世代間交流を行う。アメリカ、インド、オーストラリアなどの国際交流や、「やさしい日本語」を用いて外国人が住みやすいまちにする。 ▪ アート・空間活用: 空き家やシャッターへのアート、大きいキャンパスへの絵画制作、高架下など今ある場所を活用したイベントを実施する。 ▪ 地域への恩返し: ニコリでのボランティアや、市内のイベント運営ボランティアに参画する。

3

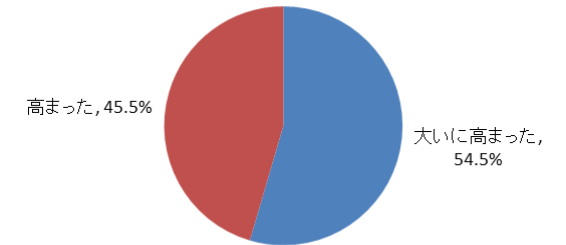
アンケート結果

1 中高生懇話会満足度(単一選択)

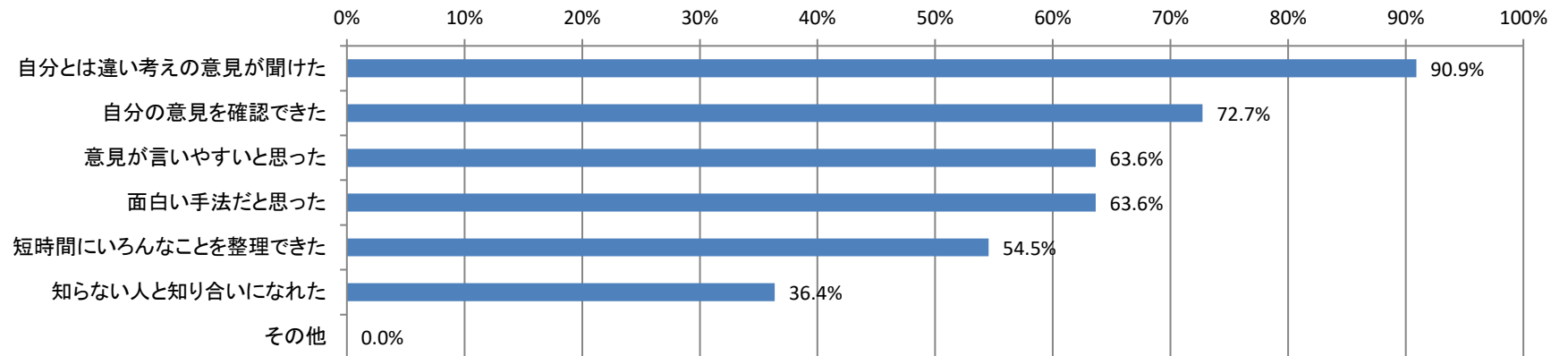
総数	11	100.0%
よかった	11	100.0%
まあまあ	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
その他	0	0.0%

2 中高生懇話会参加によるまちづくり参画意欲の変化(単一選択)

総数	11	100.0%
大いに高まった	6	54.5%
高まった	5	45.5%
変わらない	0	0.0%



1 中高生懇話会の手法について(複数選択可)



言いそびれたこと今後の要望など

- 中高生が中心になって活動する SNS での発信があれば、市外・県外の若い人たちに魅力を伝えられると思った。SNS 運用は中高生が得意なので、今らしい発信ができそう。
- 中高生だけでなく小学生の意見も聞いてみたい。もっと様々な年齢層の方と交流したい。
- 市外在住だが葦崎を好きになれており、この懇話会でさらに好きになれた。遊べる所が増えると嬉しい。ライフガーデンに焼き鳥などのキッチンカーがほしい。
- 小さい頃から葦崎で暮らし不便を感じなかったが、他の人の意見に納得することが多かった。大型施設の導入やアクセス改善がまちづくり発展のきっかけになると感じた。他の年齢層の意見も取り入れると良い。
- 高校生が SNS で“高校生目線”の情報発信(カフェやイベント紹介)、大きなイベントで中高生の発表の場(軽音部、出店など)、“やさしい日本語”で外国人が住みやすいまちへ、・ニコリ自習室の受付を簡単に(紙記入が大変)
- 神山町など離れた地域では不便さを感じる人がいる。移動スーパーが再開されると良いと思った。
- 今回の意見がまちづくりや政策に反映されると嬉しい。少子高齢化の中、誰もが暮らしやすいまちにするには若い世代の行動が大切だと実感した。
- 中高生参加型の懇話会を定期的を開催することで、地元を考える機会が増え、地域活性化にもつながると感じた。
- 特になし
- 自分がまちづくりの一員であると再認識できる楽しい懇話会を開いてくれてありがとう。
- 特になし。みんな自分の意見をしっかり持っていてすごいと思った。自分にはない考えを知れて良かった。

